

中村学園大学に対する改善報告書検討結果

＜大学評価実施年度：2021年度＞

＜改善報告書検討実施年度：2025年度＞

中村学園大学から改善報告書の提出を受け、本協会は改善に向けた大学全体の取り組み、1点の是正勧告及び3点の改善課題の改善状況について検討を行った。その結果は、以下のとおりである。

なお、末尾に記述するように、前回の評価結果において指摘のあった「基準2 内部質保証」及び「基準4 教育課程・学習成果」について、検討の結果、改善が認められたことから、当該大学は内部質保証の状況を踏まえた評価の弾力的措置に係る要件ア)～ウ)を満たしている。

＜改善に向けた大学全体の取り組み＞

本協会からの改善課題の改善を図るため、全学内部質保証推進組織である「審議会」が対応する担当部局の改善目標及び年次計画を策定して改善に取り組んできた。「自己点検・評価委員会」及び「審議会」は、年度ごとに改善状況を確認して大学全体で改善への意識を高めてきた。2022年度には、内部質保証に関わる組織間の連携強化及び機能確立のため、「審議会」の下部組織である「自己点検・評価委員会」及び「FDセンター」について、役割、権限及び構成の見直しを行った。このように、「審議会」が中心となって課題改善のための仕組みを整え、年度ごとに自己点検・評価を実施して継続的に課題の改善と内部質保証の充実に努めている姿勢がうかがえる。

＜是正勧告、改善課題の改善状況＞

提言の改善状況から、改善の成果が概ね表れているといえる。

改善課題については、単位の実質化を図る措置に関わる問題に関して、今後もさらなる改善に努めることが求められる。

個別の提言への改善に向けた大学の取り組み及びそれに対する評価は、各提言に対する検討所見のとおりである。なお、前回の大学評価時には指摘対象となっていなかった事項について、今回の改善報告書提出時には提言に相当する問題が生じているため、検討所見を参照し、次回の大学評価に向けて改善に取り組むことが求められる。

1. 是正勧告

| No. | 種 別 | 内 容 |
|-----|--------|-----------------------|
| 1 | 基準 | 基準2 内部質保証 |
| | 提言（全文） | 事業計画及び本協会の大学基準に基づいた2つ |

| | | |
|-------------|--|--|
| | | <p>のPDCAサイクルにおいて、「自己点検・評価委員会」「FDセンター」それぞれが改善策を検討しているものの、内部質保証推進組織である「審議会」はいずれの改善・向上のプロセスにも携わっておらず、組織間の連携が認められない。また、学生支援や社会連携等に関する事務局組織の点検・評価の結果については、「自己点検・評価委員会」の検討の前に、実際には法人本部長が主宰する「事務職経営企画会議」が検討を行っており、方針と異なる組織が内部質保証に関わっている。今後は、「審議会」と「自己点検・評価委員会」「FDセンター」「事務職経営企画会議」との関係を明瞭にしたうえで、「審議会」を中心に、全学的に内部質保証を機能させるよう是正されたい。</p> |
| <p>検討所見</p> | | <p>全学内部質保証推進組織である「審議会」が点検・評価後の改善・向上プロセスに携わっておらず、また、方針と異なって「事務職経営企画会議」が点検・評価のプロセスに介在していた問題について、まず、内部質保証の体系図を「教育を軸とした内部質保証体系図」に改め、中核となる「審議会」の役割、権限及び組織的な位置付けも規程に明文化する対応をとっている。また、「審議会」のもとに置かれる「自己点検・評価委員会」及び「FDセンター」についても内部質保証に関わる組織として相互の役割を改めて規程上に定め、それぞれが別個の役割を果たすことを明確にしている。「事務職経営企画会議」が点検・評価のプロセスに介在していた点は、同会議が点検・評価の機能を有していないことを改めて確認し、内部質保証上の構成組織として位置付けないものとした。なお、「教育を軸とした内部質保証体系図」に改まり、「事務職経営企画会議」が関与しないことにもなったが、これまで同会議が検討に関わっていた社会連携等に関する事項は、新体制のもとで所掌部署が行っている。</p> <p>以上の変更のもと点検・評価活動を行っている事実があり、かつ「審議会」が3つの方針の改定やそれに基づく教育課程の変更等を審議・決定し学内の</p> |

中村学園大学

| | | |
|--|--|--|
| | | <p>取り組みを促しているなど教学マネジメントの実態がある。</p> <p>以上のことから、問題事項は改善したと判断できる。</p> |
|--|--|--|

2. 改善課題

| No. | 種 別 | 内 容 |
|-----|--------|---|
| 1 | 基準 | 基準4 教育課程・学習成果 |
| | 提言（全文） | <p>流通科学部流通科学科では、1年間に履修登録できる単位数の上限を定めているものの、編入学生に対してはその上限を設定していない。また、教育学部児童幼児教育学科1年次では、1年間に履修登録できる単位数の上限を定めているものの、上限から除外している科目がある。これにより実際に上限を超えて単位を履修登録する学生が多く見受けられる。全学的に単位の実質化を図るための措置を行っているものの、不十分であるため、単位制の趣旨に照らして改善が求められる。</p> |
| | 検討所見 | <p>流通科学部流通科学科では、2023年度以降に転入学又は編入学した学生に対し、1年間に履修登録できる単位数の上限を49単位とする方針を定めて関連規則を改正した。また、そのことを「中村学園大学学生便覧」で学生に周知しており、学生の履修登録状況からもその効果を確認することができる。以上のことから、改善が認められる。</p> <p>教育学部児童幼児教育学科では、2022年度以降に入学した学生に対し、1年間に履修登録できる単位数の上限である49単位に特別支援教育に関する科目を含める方針を定めて関連規則を改正した。そして、「中村学園大学学生便覧」で学生に周知しており、1年次の学生はこの上限の範囲内で履修登録している。しかしながら、同学科に転入学又は編入学した学生については、入学前既修得単位の認定状況及び入学後の履修状況を勘案し教授会で履修の上限を決定することとしており、2025年度には編入</p> |

中村学園大学

| | | <p>学した3年次の学生の半数近くが49単位を超えて履修登録している状況にある。そのため、単位の実質化を図るための措置が十分であるとはいえないことから、単位制の趣旨に照らして引き続き改善が求められる。</p> |
|-----|--------|--|
| No. | 種 別 | 内 容 |
| 2 | 基準 | 基準4 教育課程・学習成果 |
| | 提言（全文） | <p>研究科の学習成果について、修士論文及び博士論文審査をもって測定しているものの、学位論文審査基準と学習成果の連関が不明瞭であるため、改善が求められる。</p> |
| | 検討所見 | <p>2023年度には、内部質保証推進組織による確認を経たうえでアセスメントプランを策定し、ここに学位授与方針に示した学習成果を評価するための項目を定義することで、それらと方針の関連性を示しているほか、プランの確実な実施を図るため研究科ごとに「アセスメントプランチェックリスト」を作成した。学位論文の審査は、アセスメントプランにおいて学位授与方針の達成度を評価する項目のひとつと位置づけて「DPルーブリック」による成績達成状況の評価と組み合わせているほか、学位論文審査基準に基づく審査にあたっては、達成度をより詳細に評価することを目的に「学位論文審査基準ルーブリック」を各研究科において学位課程ごとに用意した。</p> <p>以上のことから、学習成果の測定における学位論文審査の位置づけが明確となり、アセスメントプランに定める諸項目によって学習成果の測定方法が明らかになったため改善が認められる。</p> |
| No. | 種 別 | 内 容 |
| 3 | 基準 | 基準5 学生の受け入れ |
| | 提言（全文） | <p>過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均について、流通科学部流通科学科が1.27と高</p> |

中村学園大学

| | | |
|--|------|---|
| | | いため、学部の定員管理を徹底するよう、改善が求められる。 |
| | 検討所見 | <p>流通科学部流通科学科では、過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均について、改善が認められる。</p> <p>なお、大学評価時に改善課題ではなかったものの、流通科学研究科流通科学専攻修士課程における収容定員に対する在籍学生数比率が0.25と低くなっていることから、改善が求められる。</p> |

<再度報告を求める事項>

なし

<弾力的措置にかかる要件の充足状況>

| 弾力的措置にかかる要件 | 前回の評価結果 における提言 | 改善状況 |
|--|-------------------|------|
| ア) 基準2「内部質保証」に関し、是正勧告及び改善課題のいずれも提言されていない。 | 有 (是正勧告) | ○ |
| イ) 基準4「教育課程・学習成果」に関し、是正勧告が提言されていない。 | 無 | — |
| ウ) 基準4「教育課程・学習成果」の学習成果の測定に関しては、改善課題も付されていない。 | 有 | ○ |

以上